

市長から市民のみなさんへ

65

山陽小野田市長 白井 博文

下水道・農業集落排水の 使用料を改定します

2ページにありますように下水道・農業集落排水について、4月分の使用料から料金の改定を行います。改定は4年～5年毎に行ってききましたが、今回は、旧市町間でバラつきのあった料金体系を統一することにしました。料金表を決めるにあたっては、他自治体を参考にしながらも、ご家庭の負担をできるだけ小さくしたいと下水道課の職員と何度も検討を重ねました。結果、標準世帯では1月あたり約210円の値上げとなりましたが、一方で増えつつある高齢者世帯については近隣自治体に比べ安くなるように工夫した、“苦心の策”と言えるものです。

もう一つ改定の大きな目的に、料金の適正化を行った自治体に対して国が許可する市債の借り換え制度の活用があります。5%～8%の高利率時（現在は2%）に行った下水道事業の借金の借り換えが実現した場合、12年間で約6億円の節約となるのですが、条件として、国は経営の健全化を求めており、その一環として料金改定は避けて通れなかったという事情があるのです。

下水道事業は多額の資金を投入し、毎年行ってきたものです。借金の総額も約200億円あり、少しでも経営を安定させるために料金をもっと値上げしたらどうかという案もありましたが、今の山陽小野田市の苦しい財政

状況を市民のみなさんに押し付けることだけは避けたいと考え、最小限の負担となるように配慮したつもりです。ご理解、ご協力をお願いします。

「セメント住吉社宅」の保存活用に 向け動き始めました

太平洋セメントとの貸借契約を終え、市に代わってセメント住吉社宅を管理する団体に「セメント住吉社宅活用保存会」が選ばれました。約1年半前のまちづくり市民会議から参加されている方が保存会の中には数多くいらっしゃいますので、それぞれの“郷愁”の想いから始まったプロジェクトが、実施に向けスタートラインに立ったことに感慨ひとしおのことと思います。

しかし、補修から運営費の捻出まで、市とは全く切り離されたところでの活動がはじまるこれからも、更にご苦労が続くことでしょう。しかし、今回の“挑戦”が、今までの本市にはない、新しい形での市民活動の“試金石”となるのです。“市民のための施設”が“市民の力”で今後、どのような展開を見せるのか、大きな期待とともに注目しています。

対話の日 [いずれの会場も19:00から]



2月14日(木) 別府公会堂
2月28日(木) 千崎東自治会館
3月13日(木) 成松公会堂

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

市民の手で「セメント住吉社宅」が 保存活用されることになりました

太平洋セメント株式会社から市に無償貸与していただくことになった「セメント住吉社宅」（住吉本町二丁目：右写真）を管理運営する団体に「セメント住吉社宅活用保存会」（以下「保存会」）が選定されました。

「セメントのまち」小野田の歴史を今に伝える建物を拠点にまちの活性化につながるような活動をしていきたい。」と抱負を語る保存会の瀬口会長。今年5月のオープンを目指します。

保存会では改修、運営をお手伝いいただける会員を募集しています。詳しくは保存会（☎83・2845）までお問い合わせください。



▲「セメント住吉社宅」は旧小野田セメントの役員社宅として大正13年に建築されました。オレンジ色の瓦が特徴です。